Benedi Consulting
M&A and Business Advisory

Topics / Insight

2016 年 7 月の注目ディール：ソフトバンクグループが英 ARM を買収

2016 年 7 月 12 日

本件の概要

ソフトバンクグループは 2016 年 7 月 18 日、英国半導体開発大手 ARM の買収を発表しました。総額 244 億ポンド（約 3.3 兆円）に上る買収価格は、これまでのソフトバンクの買収案件の中で最大となります。一株当たりの買取価格は 1,700 ペンス。これは、公表前日の市場株価に 43%のプレミアムを加えた金額であり、また、2015 年 3 月につけた上場来最高値と比べても 41%プレミアムとなる水準でした。

本件に係る買収手続きはスキームオブアレンジメントによるとされており、本年 9 月 5 日に効力発生となる予定です。このスキームオブアレンジメントとは、取引の内容について株主総会の承認と裁判所による認可を得ることで友好的に買収を成立させる英国の会社法上の制度。100%子会社化を目指す際には TOB に比べて使いやすいこともあって、横河電機によるKBC買収（2016 年）、三井住友海上火災によるアムリン買収（2015 年）など、最近多くの英国企業買収案件で採用されているものです。本件では、8 月 3 日にスキームドキュメントが株主に対して提出され、8 月 30 日に予定される裁判所集会及び株主総会を経て 9 月 5 日に取引の効力発生となる見込みとなっています。

買収後 ARM はソフトバンクグループの 100%子会社となるものの、経営陣や従業員に手を付けることはせず、基本的に経営の独立を保ってこれまで同様に事業を継続することも合意されました。

また、3.3 兆円の買収資金のうち 2.3 兆円については手元資金が充てられます。残りの 1 兆円はブリッジローンによって調達されますが、これはガンホー並びにスーパーセル株式の売却代金が 8 月以降に入金されることを見込んだつなぎとのことでした。ソフトバンクグループは、アリババと上記 2 社の株式売却を立て続けに成立させ、総額約 2 兆円の資金回収を決めたことにより大きな関心を集めていましたが、1 か月も経たないうちにその使い道が決まったことになります。

意思決定のスピード感

ソフトバンクグループの孫社長によると、実際に ARM のチェンバース会長に初めて会い、正式に買収提案をしたのは 7 月 18 日の本件発表のわずか 2 週間前とのことです。そして、その後 2 週間のうちにデュー・ディリジェンスを経て合意に至り、発表まで漕ぎ着けるというスピード感が強調されました。

但し、孫社長にとって ARM の買収は 10 年来ずっと頭に描いていた案件であり、会長との面

Copyright © 2016 Benedi Consulting Co., Ltd. All rights reserved.

会の 1 週間前に ARM のシガース CEO との面談もしていたとのこと。また、ソフトバンクグループと ARM の両社とも、取締役会で全会一致の意思決定がなされているとのことでした。つまり、現場レベルにおける水面下での検討と議論は、それまでに相当実施されていたと推察されます。直近における約 2 兆円の資金回収は正式な買収提案に至ったきっかけの一つとされていますが、逆に買収検討の進捗が巨額の資金回収を推し進めることとなったともいえそうです。

ソフトバンクグループにとっての ARM

ARM の事業は、半導体を製造するために必要なIPを開発し、これを CPU などの設計図としてアップルやサムスンなどの半導体メーカーにライセンス提供するというもの。そうした ARM ベースの製品は 2015 年に 148 億個が出荷されており、スマートフォンにおける市場シェアは 97%、タブレット、ノート PC などを含むモバイルコンピューティング関連市場全体でもシェアは 85%を占めています。更に、今後、爆発的な市場拡大が予想される自動車関連や IoT 関連市場において使用されるチップもその多くが ARM ベースとなり、同社は安定的に成長を続けていくと見られています。

但し、こうした ARM の事業は既存のソフトバンクグループの事業とかけ離れていることもあり、両社間におけるシナジーは見えてきません。孫社長も、本件についてはIoTというパラダイムシフトの入り口でした大きな投資としており、既存のビジネスとの直接的なシナジーについては短期的には理解されにくいだろうと話をしています。また、ARM の中長期的な戦略に関しては強く関与していくとの宣言もしていることから、パラダイムシフトがより色濃く現実のものとなっていく状況を見据えながら、孫社長は時間をかけてグループとしてシナジーを発揮できるビジネスモデル実現を目指すのだと考えられます。

2016 年 6 月末における ARM の純資産額は 20 億ポンド（約 0.3 兆円）であるため、のれんと無形資産の金額は合わせて約 3 兆円に上ります。そのため、従来からのれんとして資産計上されている 1.6 兆円と合わせると、ARM の買収の結果、のれんだけで自己資本の金額を超えてしまうことも想定されます。本件が「高すぎる投資だった」ということにならないためには、将来IoT時代の本格化を迎えた時に、ソフトバンクグループが ARM の技術力をプラットフォームとして大いなる事業変革を成しえていることが求められると思われます。

＜問い合わせ先＞

ベネディ･コンサルティング株式会社

Mail： info@benediconsulting.jp

Web site： http://benediconsulting.jp

Copyright © 2016 Benedi Consulting Co., Ltd. All rights reserved.